

医療の質測定 定義書

更新日：2024年11月14日

基本情報

指標番号

0549_2

名称

非心原性脳梗塞（TIA 含む）の診断で入院し、入院中に抗血小板療法を受けた症例の割合

分母

18歳以上の非心原性脳梗塞か TIA の診断で入院した症例

分子

分母のうち、入院中に抗血小板療法を受けた症例

指標群

脳卒中

意義

非心原性脳梗塞の治療に際して急性期に抗血小板療法を開始することが勧められる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、非心原性脳梗塞か TIA の診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
I630	動脈血栓症による脳梗塞
I632	アテローム血栓性脳梗塞
I633	血栓性脳梗塞
I635	脳動脈閉塞・狭窄による脳梗塞
I636	静脈性脳梗塞
I638	ラクナ梗塞
I639	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

4. このうち、脳卒中の発症時期が 3 日以内の症例。2010 年度～2011 年度 脳卒中の発症時期に
入力された日付が、入院日より 3 日以内。例： 2010 年 9 月 10 日発症 2010 年 9 月 13 日入
院 →4 日目入院であり含めない。2012 年度～ 脳卒中の発症時期「1（発症 3 日以内）」
5. このうちいずれかの病名の ICD-10 コードとして I48\$の心房細動及び粗動を伴う症例は除外す
る。
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

医療の質測定 定義書

更新日：2024年11月14日

分子の定義

1. 抗血小板療法を入院中に施行された症例

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○	
1143700	アスピリン	○	○						
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○	○
3399008	クロピドグレル硫酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩						○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- ガイドラインでは、抗凝固薬としてのヘパリンの使用は2009年版のガイドライン以降一貫してグレードC1で考慮してもよいという推奨にとどまっているため分子に含めない。
- オザグレルナトリウムやシロスタゾールは以前の指標改訂時に定義として分子に加えたが、脳卒中治療ガイドライン2021[2023]において脳梗塞急性期の抗血小板療法では推奨度Cとであることを鑑みて、2024年の本定義見直しの際に分子の条件から除外した。
- その他本邦には抗血小板薬は複数存在するが、本指標では脳卒中治療ガイドライン2021[2023]において急性期の抗血小板療法で推奨簿B以上のもののみ分子に含めている。
- ヘパリンあるいは分子に含めない抗血小板薬等の利用を優先した場合は指標値が低く算出されるが、本指標は症例個々に対しての判断、あるいは医師の見解を評価するものではない。
- 非ビタミンK阻害経口抗凝固薬（DOAC）の開始時期に関しては高度のエビデンスがまだないため現時点では分子に含めることは難しいと判断し、抗凝固薬の適応となる心原性脳塞栓症・TIAは分母から除外している。
- 入院前より抗凝固薬治療を継続している場合、入院中に抗血小板薬の追加を行わないことが考えられ、そのような症例により指標値が低くなりえる。

参考資料

参考値

参考資料

1. 薬剤成分名は、以下を参照 <http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html>
Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association).
2. Guidelines for the early management of adults with ischemic stroke.
3. A guideline from the American Heart Association/American Stroke Association Stroke Council, Clinical Cardiology Council, Cardiovascular Radiology and Intervention Council, and the Atherosclerotic Peripheral Vascular Disease and Quality of Care Outcomes in Research Interdisciplinary Working Groups.
4. Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack.
5. Update to the AHA/ASA recommendations for the prevention of stroke in patients with stroke and transient ischemic attack.
6. 脳卒中治療ガイドライン 2009 および 2015 (1-4. 急性期抗血小板療法)
7. 脳卒中ガイドライン 2015. p58. 1-2, p64. 1-4
8. 脳卒中治療ガイドライン 2015 [追補 2019]
9. 脳卒中治療ガイドライン 2015 [追補 2017]
10. 脳卒中治療ガイドライン 2021 [追補 2023]